

ひっ算のしかたをかんがえよう

B

実践概要

3位数-1、2位数の筆算の仕方を考え、短冊を使って表現する。答えを出すまでの過程をアルゴリズムと捉え、より正確に速くできる順序を理解していく。

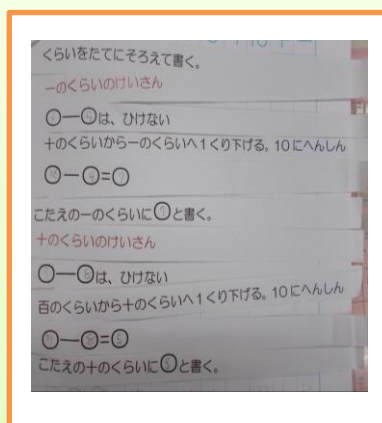
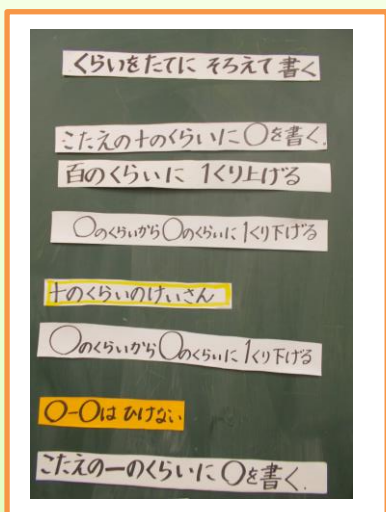
使用教材（製品名）・ICT環境（OS名等）

新しい算数2上（東京書籍）
短冊

単元計画（全11時間）

	○主な学習活動	●指導上の留意点・◇評価内容等
一次	<ul style="list-style-type: none"> ○2位数+2位数=3位数の筆算の仕方を考える。 ○2位数+1、2位数=3位数の筆算の仕方を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ●2位数の加法（百の位への繰り下がりがなし）、2位数の減法の筆算を学習している。これらの既習の筆算を基に考えるようにする。 ◇2位数+1、2位数の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。
二次	<ul style="list-style-type: none"> ○3位数-2位数の筆算の仕方を考える。 ○3位数-1、2位数の筆算の仕方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分の考えと比べやすいように、共通の言葉を使うようにする。 ●どうしたら正確に、簡単にできるかを意識するようにする。 ◇3位数-1、2位数の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。
三次	<ul style="list-style-type: none"> ○大きい数の筆算の仕方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇大きい数の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。

ここに注目！（本事例のポイント）



筆算の手順を短冊にしたものを黒板にランダムに貼り、児童にも短冊を配付した。児童は、自分で考え短冊を並べた。短冊にすることで、必要な手順を児童が意識することができた。

3人で自分の手順を見せながら、発表し合った後、全体で話し合った。その後、自分の手順を見直し、ノートに貼った。共通の短冊を使うことで、手順を一般化することができた。